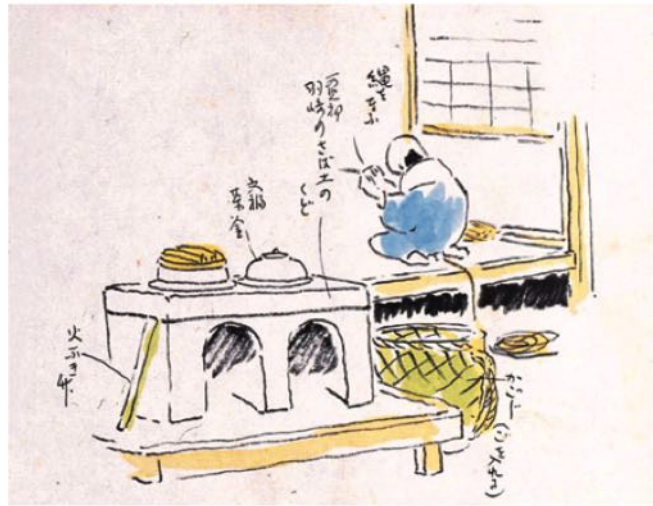




高橋余一の「生活絵巻」



上の絵に書かれた文章

縄をなふ

可児郡羽崎の
さば土のくど

文福茶釜

火ふき竹

かごじ(ご)を入れる

35 さば土のクド

クドはこの辺りの呼び名で、かまどのことです。台所はオカッテといいました。

生活絵巻には、サバクドが描かれています。サバクドとはサバ石で作られたかまどのことです。可児市の羽崎地区などではサバ石(凝灰質砂岩)が採れました。火山灰が堆積してできたもので、泥や砂、細かな石が混ざっており、比較的柔らかく、加工しやすいのが特徴です。可児市では戦前頃まで、建築材のブロックとしてサバ石を切り出したリ、サバクドが作られたりしました。

絵巻に描かれたクドの脇には、空気を送るための火吹き竹が立て掛けてあります。また、たきつけの際に使う松の枯葉(ゴと言う)を山へ採りに行くときに背負うかご(カゴジ)が据えてあります。

ほかかむりをした女性が、アガリハナで縄をなっていて、なえた縄が土間に見えます。